

河西便り

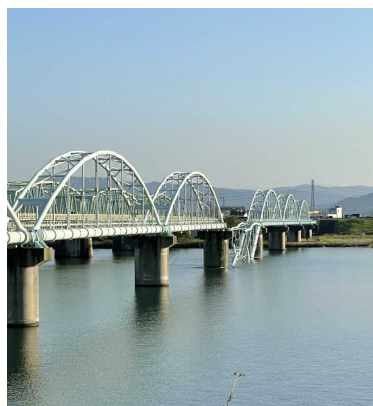


第8号 水の大切さ
2021.10.22 河西中学校

和歌山市六十谷水管橋崩落による断水を通して

○生きるために無くってはならない水

日本は水資源に恵まれた国のため、私たちは水がいつでもあることが当たり前だと思っています。ですが、大規模地震が発生すると、水道管が破断したりして、長期間、水が途絶します。阪神・淡路大震災でも仮復旧に1ヶ月半、全戸通水には3ヶ月かかりました。東日本大震災でも、地震の1ヶ月後に東京都の金町浄水場の水道水から放射性ヨウ素が検出され、ペットボトルの水が売り切れてしまったことがありました。水が無ければ生きていけません。洗面、入浴、トイレ、洗濯にも不自由します。今一度、水について考えてみたいと思います。



○水が届くまでの長い道のり

河川などから我が家まで水が届くには長い道のりがあります。まずは、ダムなどの貯水池に水を貯め、その水を河川の取水口から取水し、導水管で浄水場に送って水をきれいにし、さらに送水管で送った水を配水池に蓄え、配水管で各家庭まで運び、止水栓・メーターを通して家庭に送られます。この間には、水資源機構、国土交通省、都道府県の企業庁、市町村の水道局など、様々な組織が関わっています。残念ながら、組織間で連携が十分に取れていないのが現状だと思います。また、自治体の水道事業は財政状況が厳しいため、老朽化した水道管の耐震化が遅れているようです。対策度合いは地域によって相当に差があるようです。

○停電しても水が届かない

綺麗な水を自然流下させていた時代と違い、現代は、水を綺麗にして送るために、浄水施設、配水池へのポンプアップ、集合住宅での水のポンプアップなど、電気が欠かせません。このため、非常用ディーゼル発電機などの準備が必要となりますが、燃料の確保も含め、十分な対策が講じられていないのが現状です。また、水質が変化しやすいため、飲用水は長期間の保管ができません。災害時に重要となる医療活動には水が欠かせません。万

が一、災害拠点病院で水が不足すると大変なことになります。また、水が無ければ、消火活動も滞ります。

○給水車

断水したときに頼りになるのが給水車ですが、給水車の数は全国で1200台くらいです。人口10万人に1台余です。小さな災害では全国の給水車が駆けつけてくれますが、広域の災害では、全く不足します。今回の紀ノ川六十谷水管橋崩落断水では、他府県他郡市をあわせて1日160台～180台の給水車が給水作業にあたってくださったそうです。

もしも、給水車が不足すると、車に給水タンクなどを乗せて配給することになると思われます。その場合にも、車両と運転手の確保が必要になりますし、道路が通れることが前提になります。

○欠かせない水の備蓄

私たちは、普段、一日一人当たり200リットル以上の水を使っています。私たちの体が必要とする水は1日に3リットル程度です。4人家族だと2リットルのペットボトル6本分になります。生きるためだけでも4人家族で1日当たりペットボトル1ケースが必要ということです。都会に住むなら、1週間程度の備蓄は必要でしょう。ただし、これだけの量ではトイレすら使えませんから、常にお風呂に水を張っておくなどの備えもしておかなければいけません。

日ごろから節水に心掛け、少ない水でも生活できるようにしておきましょう。

～11月の予定～

- 世界津波の日 11月5日（金）
- 文化祭 11月12日（金）非公開
- 2学期期末テスト 11月22日（月）24日（水）25日（木）

～クロムブック（タブレット端末）について～

○修理等に関して、故障破損原因によってはご家庭で修理費を負担していただく場合がありますので、ご了承ください。
(和歌山市教育委員会)

